

平成29年度事業運営方針経営協議会開催

4月6日、名古屋地本は「平成29年度事業運営の基本方針」に基づく経営協議会を開催しました。会社側より基本方針に対する説明がされ、それに対し、山田委員長から組合側の主張を述べ協議を行いました。

平成29年度事業運営方針

「すべては安全のもとに」～安全を最優先に、親和感のあるサービスの提供～

1. 安全・安定輸送の確保に向けた着実な取り組み
2. 親和感のある質の高いサービスの提供
3. 将来を見据えた業務遂行体制の構築に向けた取り組み
4. 鉄道のプロとしての意識の醸成と活力のある職場づくりの推進

(具体的な項目については資料を参考にしてください)

山田委員長の主張

1. 会社は、30年の節目の年に「経営理念」の改訂や制服の刷新など様々な取り組みを行ってきているが、これらの多くは対外的なものである。これまで30年間順調にこられたのは、組合員・社員の頑張りがあったからだ。組合員・社員に対する感謝の姿勢を明らかにするべきだと考えるが会社として何か検討されているのか明らかにすること。
2. 年休発給について、年休が入らない・年休が流れる・保存休暇が満杯になったなど年休に関する問題がある。東海労は、様々なところで申し入れを行ってきたが、会社は、常々「適正な要員配置は行っている」と回答しているが、現場で働く私たちからすれば、適正要員が配置されているなどといわれるが感じられない。これらは、現場における各種イベントの開催によって計画的に年休が入らない様々な要因がある。政府も働き改革で、様々労働条件の改善が目指されている。適性要員にプラス余裕要員を配置されることを強く要求する。
3. 安全問題に関して、東海労は、この間いくつか会社に対して申し入れを行ってきている。金山駅のITVなど改善もされたが、まだまだ乗務員の意識に頼っての安全対策が多いのが現状である。安全柵について試験的に導入されるが、充実した施策を要求する。また、最近、制限速度違反が続いているが、その対策として徐行予告の増設・徐行信号機の視認性の向上など要求する。
4. 安全に関する申し入れに対して業務委員会の開催をしなかったりすることが発生している。その他の要求に対しても、何ら回答されないものが多い。転勤希望・昇格試験のあり方・出向先の事業所の転勤など、しっかりした労使関係をつくるためには、組合側の様々な声を聞いて改善がなければ、良くならないと考える。積極的に改善していただきたい。

【主な議論】

・山田委員長の主張に対する回答

会社:組合側の質問から回答する。

組合:JR発足30年に対して、社員に感謝の気持ちを具体的に表すために何か考えているのか。

会社:30年は、社員の努力のおかげで発展してきたと考えている。具体的とは何を指すのか。

組合:記念品とかお金である。

会社:そのようなものは考えていない。

組合:現場では、年休が出ないのは要員不足であると考えている。会社はいかに考えているのか。

会社:要員問題は、次の業務委員会の中でしっかりと回答する。

組合:徐行箇所における徐行関連の信号機の視認性の問題について、予告信号機を増設するように要求したがどうなっているのか。

会社:すでに設置している箇所もある。

組合:確かに設置はされたが、見にくいと言われている。誰が見るためのものか考えて設置すること。徐行信号機等は国鉄時代からほとんど何も変わっていない状況である。速度が向上している中で意識の向上だけで制限速度違反を防げでは無理があるのではないか。

会社:時代に合わせてやれることは試験的にやっている。

・事業運営の基本方針について

会社:事業運営の基本方針に対する質問はないか。

組合:リードの部分の「親和感のある質の高いサービス」とは何か。

会社:お客様に喜んでもらえるサービスを提供して、お互いに喜ばしくなれるものを求めていく。

組合:3(2)「在来線のあるべき姿の検討」で説明された「三世代の鉄道運営」とは何をを考えているのか。

会社:今、何を考えているというものではない。今後どのようにしていくか勉強していく。

組合:他会社にあるような分社化、子会社化というイメージではないのか。

会社:今のところ、そのようには考えていない。今後検討するものと考えている。

組合:1(6)「ホームにおけるさらなる安全性向上の取り組み」に対して、組合も問題が大きいとしてこの間多くの申し入れを行っている。東海労としてはホーム駅員の配置もしくは稼働柵の設置が必要と考えているが、会社の対応は遅いと言わざるを得ない。

会社:なぜ遅いというのか説明すること。

組合:施策に対して会社から説明がなされていないではないか。

会社:点字ブロック、声かけなどの対策は進めている。

組合:マスコミや障害者団体からの申し入れなど時代の要求に対してもっとスピードアップを行うこと。

組合:2(4)「各線区に応じた適切な輸送体系及び営業体制の検討」で説明された駅のシステム化は更に推進していくということなのか。

会社:今後の課題である。その都度、業務委員会で検討していきたい。

組合:2(5)「快適・安心なご利用状況の検討」とあるが、地方ではトイレがない駅も存在する。また、超優良企業のJR東海において未だに「くみ取り式」トイレが多い。駅施設の快適な利用の検討はされているのか。

会社:資金には限りがある中でやっている。地方自治体と連携もしている。

組合:自治体と連携しているというが、鹿問題も自治体と協議しているという情報はない。自治体にとって駅は玄関である。玄関に「くみ取り式」では自治体としても恥ずかしい。駅長などがもつと自治体に関係できる環境を整備するべきではないのか。

会社:自治体とも話を進めていきたい。

組合:組合は、交運を通じて行政や警察に要望を出している。会社も自治体と議論を進めて欲しい。

会社:適宜適切に行っている。会社は消防署とも連携している。

組合:東海道線などで連日列車が遅れている。安定輸送がされていない。定時運行ができるように努力をしてもらいたい。

会社:安全のためには列車を止めることが重要と考えている。日頃から何かあったときにはどうするかを考えている。安全に定時に運行する努力をしている。

組合:キハ85型の老朽化の問題など新型車両に対して何か考えはあるのか。

会社:勉強はしているがすぐにできるものではない。

組合:キハ75型の冷房不具合のメンテナンス問題など快適なサービスを提供できるようにすること。

会社:メンテナンスについては今年も事前に手を打っていく。

以上